JWF Water Journal
from Bali, Indonesia
編集協力 日本水道新聞社
Japan Water Forum 日本水フォーラム

第10回 世界水フォーラム 速報　Vol.6（最終号）　2024年 5月27日（月）

京都世界水大賞 2024 授賞式

第10回世界水フォーラム閉幕、次回は2027年サウジアラビア

第10回世界水フォーラムは、160の国と地域から約2万人の登録者、セッション数は279、来場総数は64000人に達しました（主催者発表）。

議論の最終日

24日の日中は、議論の最終日として主に、分野横断を図るCross-cutting session、個々の議論を集約するSynthesis sessionが行われました。閉会式直前のセッションでは、政治プロセス、地域別プロセス、テーマ別プロセス、その他の主要セッションの取りまとめ役が登壇。アジア太平洋地域からは、アジア・太平洋水フォーラム執行審議会議長のチャンファ・ウー氏、テーマ3からICHARMセンター長の小池俊雄氏、テーマ5からはアジア開発銀行の石井暁氏などが発表しました。

京都世界水大賞

24日夕刻の閉会式では、通算7回目となる京都世界水大賞2024の授賞式が行われました。京都世界水大賞は、第3回世界水フォーラムが日本（琵琶湖・淀川流域、2003年）で開催されたことを契機に、創設されました。

今回の受賞団体は、30カ国、70件の応募の中から、インドネシアのNGO「Youth Sanitation Concern」(YSC)が受賞。YSC代表のイファ・レミ氏へ、本賞共催者の日本水フォーラム副会長・沖大幹教授および世界水会議理事・Saatci教授、そして協賛代表として旭酒造株式会社代表取締役社長・桜井一宏氏から、賞金と記念品が贈られました。YSCは地域の公衆トイレを含む衛生インフラの構築と意識向上活動を推進。施設導入後に地域住民自身が管理できるよう支援した点も高く評価されました。桜井社長は、「YSC の皆さんは環境を変えようと挑戦をしている。酒造りを通じて挑戦を応援できることを喜びに思う」と語りました。また、本賞共催者の京都市からは、京都市長・松井孝治氏からビデオメッセージが寄せられました。

世界水フォーラムを終えて

閉会式でWWCのフォーション会長は自然、健康、食料、多様性、尊厳、権利、若者、政治、外交等のキーワードを挙げながら「解決策を推進する場となった」と、開催国のインドネシア政府に感謝を示しました。インドネシアのバスキ公共事業・国民住宅大臣は、会議の成果の一つとして若者の参画を強調。政府として、若者を対象としたプライズを立ち上げることを明らかにしました。

閉会式で京都世界水大賞2024授賞式を催行

3年後の第11回開催に向けて、インドネシアからサウジへ引継ぎ式

PHOTO:世界水フォーラム・メディアセンター提供

©2024 JAPAN WATER FORUM

地方自治体の日 水のエンパワーメントで地域を持続可能に

政治プロセスでは22日の「地方自治体の日」に、世界の地方自治体・地方政府の代表団が集いました。水インフラサービスの計画、ガバナンス、資金調達をはじめとするさまざまな観点から、地方自治体・地方政府が果たす役割や、多様なステークホルダーとの連携の必要性、政治的アプローチの重要性などが改めて強調されました。

熊本が守る地下水

午後のセグメントでは、地域ごとの水に関する課題や解決策等について議論が行われ、スペシャルフォーカスとしてフィリピン、インドネシア、カンボジア、バングラデシュ、中国、日本らアジア諸国の自治体首長が登壇しました。日本からは熊本市の大西一史市長が熊本地域の水循環の取組みについて紹介。地下水保全を含めた河川流域管理と気候変動に伴う水害への備えに総合的に取り組むことで健全かつ持続的な水循環の形成を進めていること、その実現へ市民や民間企業らステークホルダーの理解・協力を得る努力を行いながら進めてきたことなどを紹介しました。

アジア諸国の自治体首長とともにセッションに臨んだ熊本市の大西市長（右から2人目）

水道管劣化をAIで予測

最終セグメントの、マルチステークホルダーとの政治的対話では、国連地域開発センターの遠藤和重所長が登壇。スマートシティに向けた取組みの一例として豊田市の「AIによる水道管の劣化予測」を紹介するとともに、新技術の採用や先進的ソリューションの導入に当たっては行政のガバナンス、市民の関与、法規制面等での変革的な意思決定が必要であると語りました。

統合水資源管理（IWRM）の現在

・How to implement IWRM forsustainable development in the context of a changing climate

テーマ別プロセスでは22日、日本の水資源政策における実務知見を世界の若手実務者と共有するセッションも行われました。

UNESCO Groundwater YouthNetwork主催のセッションでは、水資源分野の気候変動適応策をテーマに、若手実務者らが経験豊富な有識者とディスカッションを行いました。トルコ、スペイン、エジプト、アメリカの有識者とともに、日本からは東京建設コンサルタントで技師長を務める岡積敏雄氏が参加。日本の水資源分野の安全保障政策の変遷、自らも関わった水資源開発計画の近年の動向について発表しました。また、将来計画の考え方については、既存インフラの活用、気候変動に伴う降雨傾向の変化や災害への対応、水需要の変化への対応等を解説し、参加者から数多くの質問が寄せられました。

日本水フォーラムからお知らせ

●読者皆様へ

第10回世界水フォーラム速報は、全6号を発行しました。

号数	発行日	配信件名	号数	発行日	配信件名
Vol. 1	5月20日(月)	第10回世界水フォーラムが始まりました	Vol. 4	5月23日(木)	アジア太平洋地域の重要性
Vol. 2	5月21日(火)	開会式にイーロン・マスク氏も	Vol. 5	5月24日(金)	日本パビリオン
Vol. 3	5月22日(水)	天皇陛下がビデオご講演	Vol. 6	5月27日(月)	京都世界水大賞2024授賞式

詳しくは、日本水フォーラムウエブサイトも是非ご覧ください。　https://www.waterforum.jp/what-we-do/wwf/

●会員皆様へ

2023（令和6）年度通常総会にて、第10回世界水フォーラムについて詳しくご報告予定です。

発行：日本水フォーラム　第10回 世界水フォーラム特別協賛：旭酒造株式会社
©2024 JAPAN WATER FORUM